

検査医が考える初期診療検査

岩手医科大学医学部臨床検査医学講座

諏訪部 章

救急領域における初期診療検査では、適切な処置・治療ために検査結果の正確かつ迅速な提供が求められる。検査の精度管理は、1)検査前、2)検査時、3)検査後に分けられる。1)検体前では、検体採取や検体処理が含まれ、処置・治療が検体採取に先行する救急初期診療では、輸液の影響などに起因する異常データがパニック値との判別で問題になる。2)検査時では、最近では分析機器自体の迅速性・正確性が向上している一方、インフルエンザ抗原検査に代表されるイムノクロマト法を用いた point-of-care testing (POCT) の種類も増えている。POCT は簡易で迅速である一方、種々のピットフォールが知られており、各々の検査の特性を熟知する必要があり、検査技師との連携が必要になる。3)検査後では、パニック値の解釈・対応が検査現場での最大の問題である。この判断には、検査技師の病態に対する深い理解が必要になる一方、臨床医との綿密な情報共有が不可欠になる。本講演では、昨今臨床検査領域で話題となっている、「臨床検査とチーム医療」、「検査技師による患者への検査説明」、「検査技師による検体採取」についても情報提供を行う予定である。